

第18回 北大阪健康医療都市を中心とした健康・医療のまちづくり会議 議事録

1 開催日時

令和2年2月18日（火） 午後1時30分から午後3時29分まで

2 開催場所

吹田市立保健センター 3階 研修室

3 構成員出席者

吹田市医師会会長 川西 克幸、吹田市医師会副会長 御前 治、
吹田市歯科医師会会長 疋田 陽造、吹田市薬剤師会会長 立木 靖子、
摂津市医師会会長 細川 眞哉、摂津市医師会副会長 山内 榮樹、
摂津市歯科医師会会長 中西 徹、摂津市薬剤師会会長 石田 行司
市立吹田市民病院総長 衣田 誠克、市立吹田市民病院事務局長 安田 平和、
大阪府吹田保健所所長 柴田 敏之、大阪府茨木保健所所長 谷掛 千里
摂津市保健福祉部理事 平井 貴志、
摂津市保健センター事務局長 杉本 正彦、吹田市健康医療審議監 舟津 謙一

4 構成員欠席者

国立循環器病研究センター病院長 小林 順二郎、
国立循環器病研究センター企画戦略局長 稲川 武宜
国立循環器病研究センター研究推進支援部長 宍戸 稔聡、
摂津市保健福祉部長 野村 眞二、吹田市健康医療部長 山下 栄治

5 案件

(1) (仮称)「北大阪健康医療都市を中心とした健康・医療のまちづくりの現状と
今後に期待すること」について

ア 前回議論の振り返り

イ 各主体から見た今後の健都の発展への希望と取組の方向性

(ア)大阪府吹田保健所、大阪府茨木保健所

(イ)摂津市薬剤師会

(ウ)JR西日本不動産開発株式会社

(エ)パナソニックホームズ株式会社

(オ)近鉄不動産株式会社

(カ)吹田市

(キ)摂津市

(2) 吹田市からの報告

6 議事の概要 別紙のとおり

事務局

第 18 回北大阪健康医療都市を中心とした健康・医療のまちづくり会議を開催します。年度末で非常にお忙しい中、また、新型コロナウイルスの対応に追われる中御参集いただきましてありがとうございます。

昨年 11 月の前回会議では、北大阪健康医療都市を中心とした健康・医療のまちづくりの現状と今後の健都に期待することの作成に向け、主に医療関係者の皆様にプレゼンテーションをいただき、その後それぞれの内容についてディスカッションを行いました。本日は前回会議に引き続き、残りの関係団体の皆様からプレゼンテーションをいただいた後、ディスカッションの時間を設けたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

なお、本日は国立循環器病研究センターの小林病院長、稲川局長、宍戸部長、摂津市の野村部長が御欠席と伺っています。

また、国立循環器病研究センターからは小久保医長が代理で御出席いただいております。

引き続き資料の確認をさせていただきます。

—資料の確認

事務局

それでは次第に従いまして、議事を進めさせていただきます。

まずは議題 1 仮称北大阪健康医療都市を中心とした健康・医療のまちづくりの現状と今後に期待することについてです。

皆様からプレゼンテーションをいただく前に、前回会議でのプレゼンテーションの内容について、資料 1 にまとめさせていただいておりますので、振り返りとして御説明いたします。

—資料 1 の説明

では、次第に従いましてプレゼンテーションをお願いしたいと思います。業務の都合で次第と順番を変更いたしまして、まず吹田保健所・茨木保健所から先にプレゼンテーションをいただきます。両保健所長については、このあと新型コロナウイルスの対応のため御退席されます。資料 2 - 5 を御覧ください。

委員

—資料 2 - 5 の説明

事務局

ありがとうございました。

中間報告では、二次医療圏をまたいでのまちづくりということで、市境界線での医療提供体制も課題となっていました。プレゼンテーションの中では、少しずつ医療圏を超えた関係構築ができてきているとのコメントをいただきました。

両保健所長がこれで退席されますので、今の内容について御質問、御意見などはございませんか。

委員

地域医療構想について豊能医療・病床懇話会で話をしていましたが、高度急性期病床を主とする国立循環器病研究センターや大阪大学医学部附属病院は、二次医療圏単位の議論にはあてはまらないのではないかという議論が出ています。その点についても広く考えていく必要があると思いますし、両方の施設とも吹田市と摂津市、あるいは茨木市の二次医療圏の境にあるものなのでその点についても考えていく必要があると思います。

事務局

ありがとうございました。次に移らせていただく前に、先ほどの資料1について1点補足がございます。前回の会議で、健都の東西を結ぶ地下道の冠水対策について御質問がありました。担当部局に確認したところ、すべての地下道に排水ポンプを設置しており、通常想定される大雨に対しては水が抜けるようになっており冠水対策が取られているとのことです。

続きまして、プレゼンテーションに移らせていただきます。摂津市薬剤師会からお願いいたします。

委員

—資料2 - 1の説明

事務局

ありがとうございました。現状に対する課題を3点あげていただきました。今後の取組の方向性では、健都未来カンファランスの設立や、実際に今行われている予防の取組、今後への期待等幅広くお話をいただきました。以前、この会議でワーキングを作って、顔の見える関係構築を行うのはどうかとの御意見をいただいていたかと思います。まちづくり会議のワーキングとしてはできなかつたのですが、実際に健都未来カンファランスという形で顔の見える関係づくりが進んでいることは喜ばしいことだと思います。

続きまして、JR西日本不動産開発株式会社からお願いします。

委員

—資料2 - 2について説明

事務局

ありがとうございました。健都イノベーションパークのアライアンス棟

の具体的な整備状況と今後の方針についてお話いただきました。アライアンス棟は吹田市で公募をさせていただき、なかなか採算が厳しいという中で果敢にチャレンジをいただきましてありがとうございます。イノベーションパークの中でも、健康医療クラスター形成という観点で交流拠点となる建物であると思います。スケジュールにありますように、2年後ということでもう少し時間がかかりますが、国立栄養・健康研究所の移転とセットでこの建物が建てられるので、2年後を非常に楽しみにしています。

続きまして、パナソニックホームズ株式会社からプレゼンテーションをいただきたいと思います。

委員 ー資料2 - 3について説明

事務局 ありがとうございます。無事に建物のオープンをむかえ、順次テナントもオープンしていくという、ウエルネス住宅の事業概要について御説明いただきました。続きまして、近鉄不動産株式会社からプレゼンテーションいただきます。

委員 ー資料2 - 4について説明

事務局 ありがとうございます。都市型住宅について、詳細に御説明いただいたのは、今回が初めてではないかと思います。最後にありましたように、環境自体が、自然と健康を意識するような形の住宅を作るということに取り組んでいただきまして、実際に御入居者の皆様も利用されているという御報告がありました。ありがとうございます。

続きまして、吹田市からのプレゼンテーションです。

ー資料2 - 6について説明

続きまして、摂津市からのプレゼンテーションです。

委員 ー資料2 - 7について説明

事務局 現状の取組から今後の取組ということで、健康寿命の延伸と地域医療の推進についてまとめていただきました。

これですべての団体の皆様からプレゼンテーションが終わりました。御協力いただきましてありがとうございました。本日のプレゼンテーション

の内容のほか、全体を通しての質疑やディスカッションをさせていただきたいと思います。内容に関しての御質問や御提案などございますか。

委員 近鉄不動産株式会社の資料にスマートフォン等を用いた健康管理システムの利用率が 20 パーセントとおっしゃっていましたが、それは高いと感じているか低いと感じているかどちらでしょうか。

委員 健康に関する取組をしているマンションだから購入したという方もいらっしゃると思いますが、決してそういった方ばかりではなく、どちらかというところ大阪へのアクセスがよいなど、立地条件を非常に気に入って購入されている方が多いです。ですから、今の利用率は、決して高くはないと思いますが、購入者が皆利用するとは想定していなかったもので、実際の利用率は、これぐらいになるだろうと考えていました。ただ、せっかく作ったシステムなので、利用率を上げるようにしていけたらと思います。

委員 自分の健康に関して意識を持っている人は、利用しているとは思いますが、そうでない方にも啓発の活動を続けていく必要があると思います。そうすることで、このエリアには健康・医療のメリットがあると分かってくることができそうです。できればデータを示して、この建物だけでなく、吹田市・摂津市等関係するエリアの方たちの意識を変えたいということが必要だと思います。そのために、利用率がもっと高くなるようにしていただけたらと思います。

委員 利用率が 20 パーセントということについて、補足させていただきます。入居者の 70 パーセントがシステムの利用登録をされています。ですから、50 パーセントの人が実際に活用していないという状況です。これは始めて間もないからということもありますが、疫学的な観察研究を行った場合、協力いただけるのは 20 パーセントから 30 パーセントです。何とか督促してやっと 40、50 パーセントとなり、なかなか過半数を超えないというのが実態です。皆様方がいろいろ考え、苦慮され、提案されていることはどれも素晴らしいことだと思います。無関心層をいかに取り込むかということが一番大切なことなので、それを実際に活用するためには、いかに無関心層を取り込むか、また、関心があるけれどもなかなか参加することができないという人、そういった企画や仕掛けを知らない人にどのように伝えるか。こういったことを多段階で見えていく必要があります。そうすることで利用率が増えていくのだと思います。

まちづくりであれば、例えば、車の速度を遅くするために、道をまっすぐ作らずあえて蛇行させたり、大学のキャンパス内であえて段差をすることなど、無関心層であってもそうせざるを得ない仕組みづくりがあります。また、たばこが吸えないようなまちづくりであれば、イギリスの国を挙げた減煙の取組のように、知らない間にみんなが減煙の取組に参加させられてしまうといった仕組みが必要だと思えます。

事務局 ありがとうございます。ノーベル経済学賞を受賞した行動経済学のナッジ理論を国でも注目していますが、そのような観点からもコメントをいただいたかと思えます。非常に難しいテーマで、こうやれば必ずこうなるといものが、解決策としてなかなかないところだと思うので、しっかり考えていく必要があると思えます。

 私から事実確認としての質問なのですが、利用者が 20 パーセントというのはどのような方を指していますか。継続して利用されている方ですか。

委員 直近 1 か月の間に利用いただいている形跡がある方として、国立循環器病研究センターから報告いただいているデータです。

事務局 あと、利用促進という話がありましたが、こういったものがあるので使いましょうという後押しは、近鉄不動産株式会社や管理会社などで何かされているのですか。

委員 このシステムの使い方のセミナーの実施や、1 月の 1 か月間でシステムを利用いただいた方に抽選でかおりの商品をお渡しするというキャンペーンなどを国立循環器病研究センターから提案いただいて実施する形をとっています。

事務局 ありがとうございます。いま、健都での具体的な取組というと、健康管理システムが対外的に取り扱われることがあるかと思えます。国立循環器病研究センターの湯本先生等も、健康な方のデータが継続して手に入ると非常によいというお話を講演でされていたかと思えますが、そういったデータの量が増えていくと研究に活かせるということでしょうか。

委員 恐らくそうだと思います。放っておいても健康への関心が高い人のデータは集まると思うのですが、大事なのは参加しない人たちをいかに引き込むのかということです。そういうデータもないと健康な人だけのデータに

なってしまうので、そうでない人との比較ができなくなってしまいます。やはり、まち全体のデータが不可欠だと思いますし、それをなくして健康寿命の延伸は考えられないと思います。

事務局 ありがとうございます。もう一点気になったところについて確認したいのですが、イーズルームという喫煙室は共用部として設けられているのですか。

委員 はい、1階に共有スペースがいろいろあるのですが、その一つとしてイーズルームを置いています。なかなかマンションの中で喫煙ルームを設けている事例はあまりないのですが、健都の中が禁煙ということなので、そういった部屋を分煙スペースとして設けた形になります。

事務局 この趣旨は、マンションの屋外で吸う人がいなくなるようにということでしょうか。

委員 専有部の中まで制限することができないため、禁煙や受動喫煙防止といった動きに合わせ、事業主の中で考えた工夫の一つとして設けました。

事務局 健都ではスモークフリーシティとして煙の见えないまちを目指して啓発を進めていますが、啓発を進める中でも非常に課題もあり、なかなか完全になくなるというのは難しいです。一方で喫煙室を設けるということをまちの中でやるのかというと、市としても踏み込めていないというのが現状ですので、もう少し市の施策としてもスモークフリーの啓発を進めていく必要があるかと思います。

ほかに質問などございますか。

委員 パナソニックホームズ株式会社に質問です。パトナの事業計画ですが、一般賃貸住宅の下にサービス付き高齢者向け住宅や小規模多機能型居宅介護事業所、医療機関などがあり、小さい空間にたくさんの機能を詰め込まれているかと思います。今までありそうでなかった形だと思いますが、入居率はどれくらいで、健常な方たちの中での移動について、中長期的なビジョンについてはどのように考えているのか教えてください。

委員 一般賃貸住宅については6割5分から7割弱の入居率です。サービス付き高齢者向け住宅に関しては、開業したばかりなので、まだ入居率は半数

に至っていませんが、これからだと思っています。

当初、一般賃貸住宅の方がサービス付き高齢者向け住宅等、ウエルネス住宅のあらゆるところと日々密接な関わりがあるようにと考えました。しかし、一般賃貸住宅の居住者が、サービス付き高齢者向け住宅等の中を通っていくことは生活時間の違いなどから難しいと考え、一般賃貸住宅の方は、1階から直通エレベータで一般賃貸住宅へ移動していただくこととしました。ですから、一般賃貸住宅の居住者は一度1階まで下りてからコミュニティスペースのある2階や3階に移動という形で動線を考えました。もう一点、高齢者の方が多く住む3、4階に子供や若者が集まることができればいいとも考えましたが、感染症等を考慮し高齢者と若者との動線も分けました。

委員

私になぜそんな質問をしたかという、デンマークやオランダに視察に行った際に、高齢者は転居によって心身に負荷がかかり、クオリティ・オブ・ライフが悪化することがあるので、サービス付き高齢者向け住宅のようなマンションに医師や看護師などが訪問し、看取りまですべて行うことがスタンダードとなっていました。今後の一つの方向性として、面白い試みだと思いましたので、利用者の声なども踏まえ今後も定期的にいろいろと教えていただきたいと思います。

事務局

入居者の方は地域包括ケアシステムという観点で医療、介護、予防も含めた様々なサービスを受けられるかと思いますが、入居者の方だけでなく地域の拠点となっただけだと思えます。地域とのつながりという観点でのパトナの取組や、入居者だけでなく他の地域の方にもサービスを提供していくという観点で、今後展開を考えていることがあれば教えてください。

委員

一般賃貸住宅とサービス付き高齢者向け住宅の居住者については、強制はできませんが、近隣の自治会への加入を積極的にお願ひしています。私どもも、自治会の方とは建設説明などでお話をし、パトナ吹田健都のすぐ裏で餅つき大会や地域の運動会をしているなど、いろいろな活動をされていると聞いています。建物の外に足を運んだり、逆に建物の外から中にお招きし、いろいろなイベントを一緒に行うこと等も考えています。また、屋上庭園での土いじりなどのクラブ活動においても、地域との交流を図っていきたいと思います。

事務局 ありがとうございます。地域に開けた拠点となるように期待しています。そのほかに何かありませんか。

委員 国立循環器病研究センターの健康管理システムは、3か月に1回、結果を家庭にフィードバックされるのですか。健都ザ・レジデンス、健都ザ・テラスどちらのシステムも同じですか。

委員 どちらのシステムでも、国立循環器病研究センターから収集したバイタルデータに基づく具体的なアドバイスを、3か月に1回、定期的に行っています。

委員 利用率 20 パーセントという数字は健診等でよく見る数字だと思いましたが、まさに疫学的な数字であるとの御説明でした。無関心層を取り込むということですが、病院及び三師会との学術的な連携や、吹田市民病院の学びの場の提供といったものは、ハードルを低くしたほうが良いと思います。各市で健康展を実施していると思いますが、そういったものを健都において三師会や行政、民間の方と連携して実施するなどはいかがでしょう。健都未来カンファランスはハードルが高いと思うので、市民の方がたまたま来て、ふらっと寄っていただけるようなものから上げていくとよいと思います。そういうところであれば、お土産につられて不健康な方が来る等が考えられると思います。摂津市の歯科の健康展でも、よくこれで食べることができていたなという方を見つけることができた例もあります。いろいろな話を聞いていると、とても立派な取組が多いと思いますが、ハードルを低くして一般の方が参加しやすいものから徐々に上げていくようにしないと、本当の健康づくりのまちに繋がっていかないのではないかと思います。高いところから始めるのはとても難しいと思いますので、このようなことも一度考えていただければと思います。

事務局 ありがとうございます。吹田市からお答えします。健都は視点が非常に高いものも低いものもあり難しいと思います。全国レベルで新しいイノベーションを創出していくという視点は外せないものであると思います。そして、それだけではないというのは、御指摘のとおりであると思います。健康展などは吹田市でも三師会とも連携させていただいており、健康づくり推進事業団で企画しております。そのような機会を通じて、健都の様々な主体による連携について、市民にも還元していけるような取組を考えていかないといけないと思います。

委員 摂津市も健康展や健康フェアを行っています。確かにそのようなイベントを行うと、普段接することの少ない市民の方がたくさん来られますので、健都でそのようなことを行えばにぎわい作りにもなりますし、無関心層の方に意識していただくきっかけになると思います。健都でどういったことができるのかは吹田市とも相談して行っていきたいと思います。

委員 健都ザ・レジデンスの入居が8割ということですが、購入された方の年代層はどれぐらいですか。健都ザ・レジデンスと健都ザ・テラスの間取り等は違うのでしょうか。

委員 年齢層について、高齢者や50歳から60歳代の方が多いかと聞かれますが、実際はファミリー層や高齢者層など、各年代層が均等にお住まいいただいています。一般的なマンションはファミリー層に偏ってしまうのですが、健都のマンションについては医療面が整っているからか、バランスよくお住まいいただいています。

次に健都ザ・レジデンスと健都ザ・テラスの違いです。健都ザ・レジデンスは824戸、健都ザ・テラスは142戸の規模ですので、規模の違いから共有施設の量に違いがあります。中には大規模を好まれる方もいますし、こじんまりしたマンションを好まれる方もいますので、好みに応じて選んでいただいています。間取りが大きく違うわけではないですが、健都ザ・テラスのほうが小ぶりなものが多く、商品としての差別化を図っています。

委員 ありがとうございます。年代層によって健康管理システムの対象や分析の結果が変わってくるのではないかと考えて質問させていただきました。

事務局 ありがとうございました。

委員 イノベーションパークのことについて質問します。建物は工夫した建物だということがよくわかったのですが、この産学連携やベンチャー企業の育成は日本でも10年、20年来いろいろなところで試みがあって、今回もその一つだと思います。実際、その取組がうまくいっていないところも多いと思います。ソフト面はどういう形で運営していくのか、また、この担当はすべてJR西日本不動産開発株式会社なのか、国立循環器病研究センターが運営に関してかかわっていくのか等、従来の産学連携と比べてどのような工夫を考えているのか、どのような使い方をしていくのかという構想や、成果の予測など教えてください。

委員 具体的にどうするのかということについては、これから構想を練っていくところです。実際の運営は、京都にある京都リサーチパークの御協力のもとやっていきたいと思います。京都リサーチパークにおける実例としては、例えば、研究者同士の交流イベントや、クラブ活動、また、外部講師を呼んでのセミナーなどがありますので、そうした取組を重ねていくことになると思います。京都リサーチパークもその地区を出て初めて事業をすることになるので、かなりの挑戦になると思います。失敗談もあるかと思いますが、その反省や経験を踏まえてやっていきたいと思います。

事務局 ありがとうございます。御指摘いただいた点はアライアンス棟のみで完結する話ではないと思います。健都イノベーションパークや健都全体で取り組んでいくことであると思いますので、吹田市でも産学官民連携としてプレゼンテーションしていければと思います。また、OIC（オープンイノベーションセンター）の湯本センター長が講演でも言われていることですが、ヨーロッパにおいては市民側、ユーザー側をアイデア創出の場面から巻き込んでやっていくということが言われているので、実証フィールドを備えている健都全体でサービス創出をしていくことができればと思います。よろしくをお願いします。

委員 健都での取組の結果、市民の健康意識が変わった、健康寿命が延伸したということは、誰がまとめてどのように発表していくかお考えがあれば教えてください。

事務局 健都のまちづくり全体で、誰の健康寿命が延びたかということにフォーカスして述べていくのは、なかなか難しいと思います。健康寿命がどうなったかは、市全体や、マンションやサービス付き高齢者向け住宅の居住者等個別の事業の対象者の方の具体的な数値を見ていくのは重要だと思います。一方で、健康寿命の延伸はこの事業をしたから延びるというのではなく、因果関係がなかなか難しいものです。しかし、まち全体でそういったものを仕掛けていけるように、吹田市として基本方針をハード部門も含めて庁内全体でやっていきたいと思います。市全体の指標と、個別のプロジェクトごとにそういったものが出てきたときにまとめてお出しできたらと思います。

ディスカッションは、時間の都合上ここまでとさせていただきます。ありがとうございました。すべての団体からプレゼンテーションをいただき

ましたので、内容を踏まえ事務局で文章化してまとめの具体案をお示しします。来年度の会議で提示をさせていただき、まとめの全体像を見る中でこういう視点も必要ではないかということをお議論いただければと思います。

最後の議題が残っておりますので、議題3について簡単に説明させていただきます。

—参考資料2の説明

—参考資料3の説明

まちづくり会議の来年度以降の運用方法については、検討していきたいと思いますが、引き続き、情報共有や意見交換の場として運用していきますので、来年度もよろしくお願いします。次回の会議については、事務局から日程調整をさせていただきます。

次回はまとめを提示させていただきますので、積極的な議論をお願いいたします。

本日はありがとうございました。